

編集後記

1976年に大韓伝統仏教研究院を創設され、世界屈指の仏教学者を招いての国際学術大会を12回にもわたって開催された金知見先生が、平成13年1月21日、新宿の常円寺にて御逝去されてから早くも2年が経とうとしている。病床に伏しておられても、常にユーモアをお忘れにならず接せられ、後進をご指導下さった先生のお姿が深く心に焼き付いている。また韓国と日本の仏教を心から深く愛され、高山寺の善妙堂を訪れた際のお話では目に涙を浮かべながらお話して下さった。それ故思いもしない訃報に、残された私達の衝撃は計り知れず大きかった。先生は仏教を軸として日韓両国間のかけがえのない架け橋として、また、日韓両国のみならず国際学術交流に誠心誠意尽力され、日本の地でその御生涯を終えられたのであるが、それは、後に託された韓国仏教留学生達への無言の指導であると思わずにはいられない。

編集会議では、第9号を金知見博士追悼論文集として、先生の卓越した業績を称える一助としての役割を果たすため最善を尽くしたつもりであるが、時間と労力の制約により、先生の意に従うものになったかどうか、甚だ気掛かりである。ともあれ、充分とは言い難いものの、このようにして追悼号を刊行する運びとなったのは多くの方々のご協力によるものである。快く弔辞の掲載をお引き受け下さった木村先生をはじめ、お時間の無いところを快諾して下さい、貴重な原稿をお寄せ下さった吉津先生及び諸先生方に心より深甚の謝意を表します。また、この論文集の支援費を浄財して下さい大韓仏教曹溪宗教育院をはじめとする各団体及び個人の諸先生方に、心から深く感謝申し上げます。そして、印刷出版を快くお引き受け下さった藏経閣の円沢師をはじめ、皆様方に改めて深く感謝致します。最後に、本誌編集の労をとられた鄭榮植氏に心から謝意を表します。

図らずも、金知見先生の追悼論文集を刊行する事になったのは、惜しい限りですが、私達韓国仏教留学生達は、先生のご遺志を引き継いで、自らの研究に励むとともに、日韓仏教交流にも邁進して行くことを志して先生及び皆様方の御恩に報いたいと思います。

2002年 12月

韓国留学生印度学仏教学研究会

会長 李 妍淑 合掌

韓国仏教学SEMINAR

— 既刊号 総目次 —

第 一 号(1985. 12)

- 新羅華嚴の思想史的意義 鎌田茂雄 (1)
 大乘六情懺悔 木村清孝 (15)
 韓国僧伽の鉢盂供養作法について 梁 銀容 (43)
 煩惱所知二障と人法二無我の研究序説 李 平来 (67)
 光宗の仏教政策と均知の華嚴思想 李杏九(道業) (81)
 仏身論思想の展開…大乘莊嚴經論を中心に 全宗積 (94)

第 二 号(1986. 12)

- 『宣和奉使高麗図経』の『図解』の再現について 中吉功 (1)
 韓国仏教伝統講院の履歴制度研究 蔡印幻 (6)
 新羅の華嚴教学への一視占
 元曉・法藏融合形態をめぐって 吉津宜英 (37)
 華嚴經…十回向品の考察 陳永裕(本覚) (50)
 初期仏教 Gahapatiの宗教観念
 —Suttanipātaを中心とした文化試論— 金漢益(悟震) (1)